

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1.5年制)		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	漢字・語彙(中級)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	40 (2) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時間	後期	教室名	502教室
担当教員	増井 奈穂美	実務経験と その関連資格				
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>毎回、前週に学んだ語彙のチェックテストを行う。まとめて、視覚的に覚える。初級終了後はコロケーション(連語)を意識し、語彙量を増やすし、将来日本で働くことを考え、使用語彙として身につけられるようにする。漢字は毎週末宿題を課し、翌週にチェックテスト、フィードバックを行う。繰り返し、定着を図るため、月に一度、再チェックテストを実施する。12月の日本語能力試験ではN4合格を目指す。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>1. 定期試験: 70 % 2. 出席率 : 20 % 3. 平常点 : 10 %</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>『みんなの日本語 I II』、『きりり日本語N5、N4、N3(凡人社)』 『ペアで覚えるいろいろな言葉(武蔵野書院)』 『総まとめN3漢字』などから抜粋、ハンドアウト使用</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>予習、復習をしてください。毎週たくさんの語彙と漢字を勉強しますので、何度も繰り返し覚えましょう。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>語彙の勉強は能力試験の「聴解のテスト」や「読解のテスト」でもとても大切です。同じグループの言葉をまとめて覚えます。聞いてわかるようになるまでしっかり覚えてください。正確に書く練習も必要です。カタカナの言葉もがんばって覚えてください。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N4、N5の語彙を修得する(1)	使用教材から適宜抜粋	語彙、漢字ともに予習と復習の実施	
	各コマにおける授業予定	家族の言い方、部屋の中のもの、日本地図、近畿地図				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N4、N5の語彙を修得する(2)	使用教材から適宜抜粋	語彙、漢字ともに予習と復習の実施	
	各コマにおける授業予定	料理に関する語彙、家事に関する語彙				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N4、N5の語彙を修得する(3)	使用教材から適宜抜粋	語彙、漢字ともに予習と復習の実施	
	各コマにおける授業予定	朝起きてから寝るまでの言葉、天気に関する語彙、電気製品				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N4、N5の語彙を修得する(4)	使用教材から適宜抜粋	語彙、漢字ともに予習と復習の実施	
	各コマにおける授業予定	身につけるものの名称、身につける際の表現(動詞)				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N4、N5の語彙を修得する(5)	使用教材から適宜抜粋	語彙、漢字ともに予習と復習の実施	
	各コマにおける授業予定	体の名称、病気の言葉、病院で使う言葉、動物				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N4、N5の語彙を修得する(6)	使用教材から適宜抜粋	語彙、漢字ともに予習と復習の実施
		各コマにおける授業予定	副詞(1)、会話の言葉、挨拶、材料・部品、交通の言葉、仕事		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N4、N5の語彙を修得する(7)	使用教材から適宜抜粋	語彙、漢字ともに予習と復習の実施
		各コマにおける授業予定	出かけるときの言葉、訪問に関する言葉、家の中、建物の中		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N4、N5の語彙を修得する(8)	使用教材から適宜抜粋	語彙、漢字ともに予習と復習の実施
		各コマにおける授業予定	仕事、交通、スポーツ、趣味、台所の中で使用される語彙		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N4、N5の語彙を修得する(9)	使用教材から適宜抜粋	語彙、漢字ともに予習と復習の実施
		各コマにおける授業予定	日本語能力試験直前対策(1)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N4、N5の語彙を修得する(10)	使用教材から適宜抜粋	語彙、漢字ともに予習と復習の実施
		各コマにおける授業予定	日本語能力試験直前対策(2)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N4、N5の語彙を修得する(11)	使用教材から適宜抜粋	語彙、漢字ともに予習と復習の実施
		各コマにおける授業予定	日本語能力試験模試		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N3の語彙を修得する(1)	使用教材から適宜抜粋	語彙、漢字ともに予習と復習の実施
		各コマにおける授業予定	健康や衣食住に関する言葉		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N3の語彙を修得する(2)	使用教材から適宜抜粋	語彙、漢字ともに予習と復習の実施
		各コマにおける授業予定	心や性格に関する言葉		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N3の語彙を修得する(2)	使用教材から適宜抜粋	語彙、漢字ともに予習と復習の実施
		各コマにおける授業予定	家事の言葉(2)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N3の語彙を修得する(3)	使用教材から適宜抜粋	語彙、漢字ともに予習と復習の実施
		各コマにおける授業予定	旅行、レジャーに関する言葉		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	日本語学科(昼間部1.5年制)		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	漢字・語彙(中級)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	40 (2) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時間	後期	教室名	502教室
担当教員	増井 奈穂美	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
<p>毎回、前週に学んだ語彙のチェックテストを行う。まとめて、視覚的に覚える。初級終了後はコロケーション(連語)を意識し、語彙量を増やすし、将来日本で働くということを考え、使用語彙として身につけられるようにする。漢字は毎週末宿題を課し、翌週にチェックテスト、フィードバックを行う。繰り返し、定着を図るため、月に一度、再チェックテストを実施する。12月の日本語能力試験ではN4合格を目指す。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>1. 定期試験: 70 % 2. 出席率 : 20 % 3. 平常点 : 10 %</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>『みんなの日本語 I II』、『きりり日本語N5、N4、N3(凡人社)』 『ペアで覚えるいろいろな言葉(武蔵野書院)』 『総まとめN3漢字』などから抜粋、ハンドアウト使用</p>						
《授業外における学習方法》						
<p>予習、復習をしてください。毎週たくさんの語彙と漢字を勉強しますので、何度も繰り返し覚えましょう。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>語彙の勉強は能力試験の「聴解のテスト」や「読解のテスト」でもとても大切です。同じグループの言葉をまとめて覚えます。聞いてわかるようになるまでしっかり覚えてください。正確に書く練習も必要です。カタカナの言葉もがんばって覚えてください。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N3の語彙を修得する(4)	使用教材から適宜抜粋	語彙、漢字ともに予習と復習の実施	
		各コマにおける授業予定	道具、情報に関する言葉			
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N3の語彙を修得する(5)	使用教材から適宜抜粋	語彙、漢字ともに予習と復習の実施	
		各コマにおける授業予定	学問、社会に関する言葉			
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N3の語彙を修得する(6)	使用教材から適宜抜粋	語彙、漢字ともに予習と復習の実施	
		各コマにおける授業予定	社会、経済・産業に関する言葉			
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語能力試験N3の語彙を修得する(7)	使用教材から適宜抜粋	語彙、漢字ともに予習と復習の実施	
		各コマにおける授業予定	物の性質やグラフに関する言葉			
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	授業の理解度の確認			
		各コマにおける授業予定	総まとめ			